

柿生駅周辺地区まちづくりビジョンの概要について

1 まちづくりビジョン策定の背景と目的

(1) 背景

- 川崎市総合計画における都市構造の今後の方向性の一つとして、「身近な地域が連携した住みやすく暮らしやすいまちづくりの推進」が示されています。本市の広域拠点である新百合ヶ丘駅に隣接する柿生駅は、昭和2年の小田急線開通時に開設された麻生区内で最も古い駅であり、区内では新百合ヶ丘駅に次ぐ乗降客数の駅として、広域拠点を補完する身近な駅に位置づけられています。
- これまで道路などの都市基盤施設の整備が進まず、駅前にふさわしい良好な市街地が形成されていなかったことから、本市としても、柿生駅周辺地区整備構想の策定（昭和59年）や都市再開発の方針における2号再開発促進地区への指定（平成2年）などを行い、駅南口の再開発事業などによる駅周辺まちづくりへの取組みを進めてきましたが、権利者等の合意形成が進まず、効果的なまちづくりが実現していませんでした。
- こうした中、小田急小田原線の複々線化事業の実施により柿生駅から新宿駅間がピーク時間帯で約30分（約5分程度短縮）で結ばれ都心アクセスがますます向上するとともに、隣接駅の新百合ヶ丘駅においては、横浜市営地下鉄3号線の延伸の検討が横浜市と連携して取組まれているなど、柿生駅周辺を取り巻く環境の変化が見込まれています。また、駅南口では、再開発事業に向けた取組みが活発になるなど、地域のまちづくりに対する機運が高まっています。

(2) 策定の目的

- 今後想定される麻生区における周辺環境の変化や広域拠点との役割分担を踏まえて、柿生駅周辺地区における課題解決に向けて、民間活力を活かしながら、駅を中心とした、南口・北口の一体的かつ計画的なまちづくりを推進するために、「柿生駅周辺地区まちづくりビジョン」を策定し、誰もが暮らしやすい魅力あるまちの実現を目指します。

2 ビジョン策定区域とまちづくりビジョンの位置づけ



3 主な現状と課題

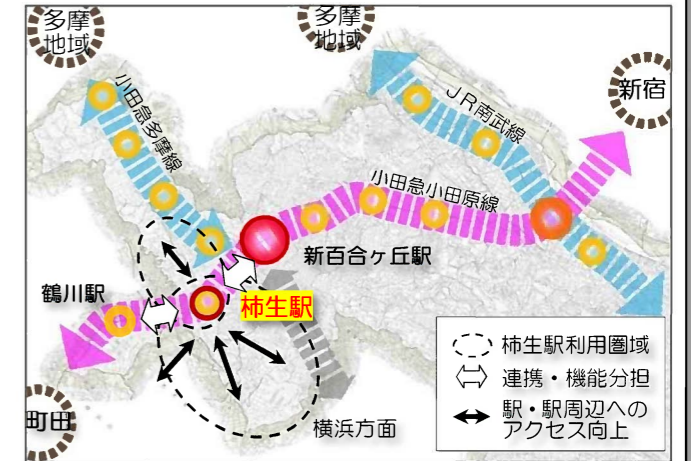
- 子育て世帯に人気があるエリアですが、生活利便施設が少なく、駅前の賑わいや活気が不足しています。また、鉄道により地区が分断されており、まちの一体感が感じられません。
- 駅周辺に地域住民がイベントなどを開催できるオープンスペースが不足しています。
- 駅南口では、駅前広場が狭く、路線バスが乗り入れできないため、バスと鉄道の乗り継ぎが不便です。
- 道路幅員が狭く歩道も整備されていないため、歩行者の安全性に課題があります。
- 柿生小学校の通学路にもなっている駅直近の2つの踏切は、車の通行も多く、子供たちの通学時の安全性に課題があります。
- 老朽木造住宅が建ち並んでおり、地震など災害に対する安全性が不足しています。
- 歴史や自然環境といった豊富な地域資源を活かした取組みが不足しています。



4 北部エリアにおける柿生駅周辺地区まちづくりの考え方

(1) 柿生駅周辺の特性

- 都心へのアクセスが非常に良好で、周辺には自然環境などが豊富にあるなど、子育て世帯に人気があるエリアです。また、周辺に高校や大学、病院もあり、教育や医療といった分野でも特徴があります。
- 柿生駅は、地形的な状況や路線バスが充実していることなどにより、片平地区や王禅寺、下麻生・早野地域、町田市域など広域で利用されているという特徴があります。
- 片平地区や駅周辺からは徒歩、下麻生・早野地区からはバス、町田市からは自転車が駅への主な交通手段として選択されています。



(2) まちづくりの考え方

- 新百合ヶ丘駅周辺地区や再整備が進められている鶴川駅周辺地区などの周辺地域との連携や機能分担を図り、また、柿生駅周辺地区が持つ地域特性を十分に活かしながら、柿生駅周辺地区を利用する様々な人々の暮らしを支える都市機能の集積と都市基盤の整備を推進することで、魅力あるまちの実現を目指します。

5 まちづくりの目標

柿生駅周辺地区における地域課題を解決し、広域拠点である新百合ヶ丘駅周辺地区との連携・機能分担をしながら、将来にわたって持続可能なまちを実現していくために、まちづくりの目標を次のように定めます。

多様なライフスタイルを支えるまちづくり

誰もが安全・安心に暮らせるまちづくり

地域の魅力を感じられるまちづくり

6 まちづくりの目指すべき将来像

概ね30年後を展望し、柿生駅周辺地区をエリアの特性に応じて、駅前にふさわしい適切な土地利用を誘導するとともに、地区内外の連携強化を図るための軸を形成し、まちづくりの目標の実現を目指します。

<賑わいと交流の拠点ゾーン>

- ・ 賑わい機能、交流機能、居住機能等の集積による駅南口・北口地区の拠点形成

<まちなか居住ゾーン>

- ・ 既存の住環境を活かした良質な居住環境の形成

<広域連携軸>

- ・ 駅周辺地区の円滑な交通処理
- ・ 新百合ヶ丘駅周辺や周辺都市との連携強化による柿生駅周辺地区の拠点性の向上

<地区連携軸>

- ・ 駅南北地区間の車両動線の最適化や歩行者の地区内の回遊性の向上による南北地区の連携強化

<南北連携軸>

- ・ 鉄道により分断されている南北地区のまちの連携強化
- ・ 地区を横断する歩行者の安全性・快適性の向上、地区内の回遊性の強化



7 分野別のまちづくりの方針

土地利用に関する方針

- 駅前に相応しい賑わい機能の誘導
 - ・南口の再開発事業による地区の拠点性を高める商業施設等の集積
 - ・北口における地域住民の利便性向上や賑わい創出に資する都市機能の集積
 - ・まちづくりに合わせたオープンスペース等の整備による賑わいの創出
 - ・通路等の整備による地区全体の一体的な賑わいの形成
 - ・様々な人が集い、交流できる賑わいの場の創出
- 多様なニーズに応じた生活・活動を支える機能の誘導
 - ・地域交流や多様なライフスタイルに対応した活動支援施設の集積
 - ・周辺の病院と連携した医療・福祉施設、子育て支援施設などの生活利便施設の集積
- 誰もが暮らしやすい居住環境の創出
 - ・多様なライフスタイルに応じた良質な居住環境の整備



商業施設等の賑わい機能の誘導イメージ

交通に関する方針

- 都市計画道路等の整備推進
 - ・柿生町田線や世田谷町田線等の都市計画道路の整備による周辺交通の円滑化
- 交通結節機能の強化による拠点性の向上
 - ・駅前広場等の整備による公共交通利用の利便性の向上
 - ・駅前の人のたまり空間の充実による地区の拠点性の向上
 - ・通路等の整備による地区の回遊性強化に向けた取組みの推進
- 安全で快適な歩行者通行環境の整備
 - ・バリアフリー対応の歩行者空間の整備による安全性・快適性の確保
- 自転車通行環境の改善と自転車等駐輪施設の効果的な配置
 - ・自転車通行環境の改善と事業者等との連携による適切な位置への駐輪施設の配置



駅前広場などの交通結節機能の強化イメージ

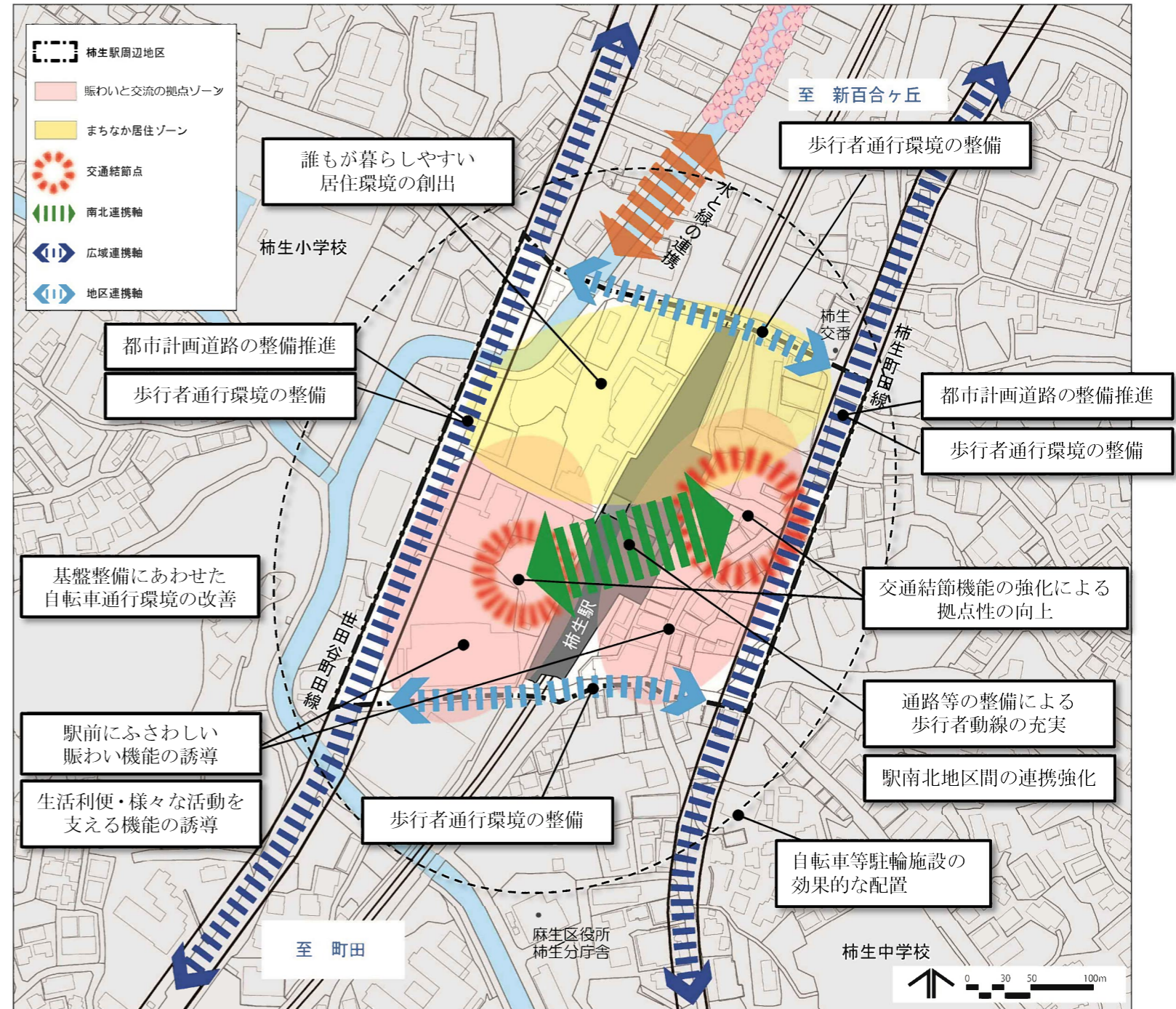
環境・景観に関する方針

- 低炭素等、環境に配慮したまちづくりの推進
 - ・再生可能エネルギーの導入や公共交通の利用促進などに関する取組みの推進
 - ・街路樹・道路緑化の推進、オープンスペースなどの民有地への緑化誘導
- 地域資源を活かした柿生らしい街並みの形成
 - ・デザインの誘導や統一的な街並み形成の推進
 - ・地域資源を活用した柿生らしい街並みの形成

防災に関する方針

- 災害に強いまちづくりの推進
 - ・道路やオープンスペース等の整備による避難路、避難スペースの確保
 - ・老朽建物の建替えや不燃化、耐震化の促進
- 地域による防災体制の構築
 - ・町会や自治会等を中心とした地域住民との協働による地域防災力の向上

まちづくり方針図



8 まちづくりの取り組みスケジュール

	短期	中期	長期
賑わいと交流の拠点ゾーン	→		
まちなか居住ゾーン		→	
都市基盤等の整備	→		
		→	